

## 第 5 学年総合試験

1. 妊娠高血圧症候群による不均衡型胎児発育遅延の際に血流再分配により胎児の血流が維持される 臓器・組織でないのはどれか
  - a 心臓
  - b 胎盤
  - c 腎臓
  - d 脳
  - e 副腎
  
2. 25 歳女性。3 回経妊 1 回経産。21 歳時に妊娠 37 週で 2950 グラムの女児を経膣分娩にて出産。23 歳と 24 歳のときにそれぞれ妊娠 7 週と 8 週で自然流産の既往がある。無月経と少量の性器出血とを主訴に受診。月経周期は 35～50 日周期で不規則であった。尿中妊娠反応は陽性、最終月経起算にて本日妊娠 8 週 3 日である。内診にて膣分泌物は褐色、子宮はやや腫大し、両側付属器は触知せず。経膣超音波検査にて子宮腔内に胎嚢は認めず、骨盤内腫瘤も認めず、ダグラス窩にも異常認めなかった。次に行うのはどれか
  - a 経過観察
  - b ダグラス窩穿刺術
  - c 子宮内容清掃術
  - d 試験開腹術
  - e 化学療法
  
3. 腹腔鏡下手術の特徴について正しいのはどれか。
  - a 開腹手術に比べ手術侵襲が大きい
  - b 開腹手術に比べコストが安い
  - c 開腹手術に比べ一般に短時間で終了する
  - d 低侵襲で安全に行えるので手術関連死亡の報告はない
  - e 皮下気腫は気腹法による腹腔鏡に伴う合併症の一つである

4. 子宮頸癌の放射線治療について 正しくないのはどれか。
- a 臨床進行期Ⅲ期以上の場合第一選択である
  - b 扁平上皮癌は腺癌よりも感受性が低い
  - c 腔内照射と外部照射が併用される
  - d 副作用として骨髄抑制、消化器症状がある
  - e 臨床進行期Ⅰ期では手術療法に比べほぼ同等の治療効果を有する
5. 42歳の女性。月経は整であったが、不正出血を主訴に受診。子宮は正常大、両側付属器は触知しない。子宮腔部細胞診の結果 classⅢbであった。直ちに行うべき検査はどれか。
- a ヒステロスコピー
  - b コルポスコピー
  - c 骨盤MRI検査
  - d 超音波検査
  - e 子宮内膜組織診